

<p><b>【技術の名称】</b>                  鴻池組RCS接合構法                  ー柱梁接合部をふさぎ板で覆った梁貫通型RC柱S                  梁接合部構法ー (改定1)</p>	<p>性能証明番号:GBRC 性能証明 第08-04号 改1                  性能証明発効日:2019年1月29日</p> <p><b>【取得者】</b>                  株式会社鴻池組</p>
---	---

**【技術の概要】**

本技術は、柱を鉄筋コンクリート(RC)造、梁を鉄骨(S)造とし、X、Y両方向の鉄骨(H形鋼)梁を貫通させ、ふさぎ板を用いてRC柱S梁接合部を構築する構法である。本構法では、ふさぎ板で柱梁接合部コンクリートを拘束することによって、設計で要求されるRC柱S梁接合部のせん断終局耐力および通し柱主筋の付着耐力を確保している。また、適用建物において想定される左右で段差が生じた梁が接続する柱梁接合部についても目標性能を満足するディテールを提案している。

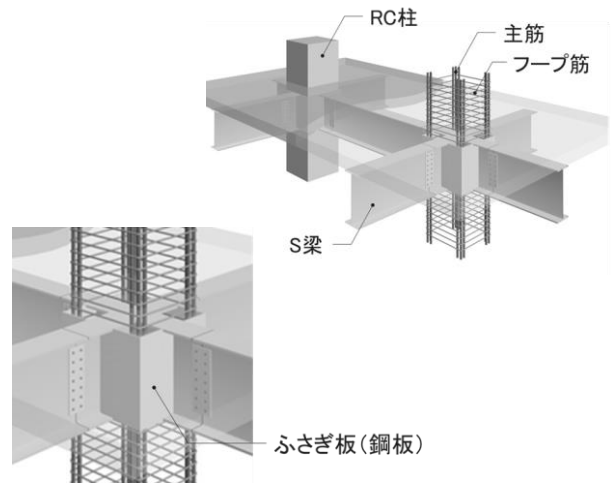


図1 構法概要

**【改定の内容】**

新規:GBRC 性能証明 第08-04号 (2008年5月8日)  
 改定1:GBRC 性能証明 第08-04号 改1 (2019年1月29日)  
 本改定は既証明の共同申込者のうち株式会社鴻池組のみに適用する。

- ・柱心に対する梁心の偏心を許容
- ・段差梁の段差寸法の適用範囲を拡大
- ・梁の使用鋼材の規定の拡大 (大臣認定材料でF値 345N/mm<sup>2</sup>以下)
- ・せん断耐力式の改定
- ・申込条件等の変更 (申込者を2社から1社に変更、工法名称の変更)

**【技術開発の趣旨】**

本技術は、工期および施工費用の制約条件の下、設計で要求される構造性能の確保が可能なRC造柱、S造梁からなる混合構造建築物の実現を意図して開発されたものである。

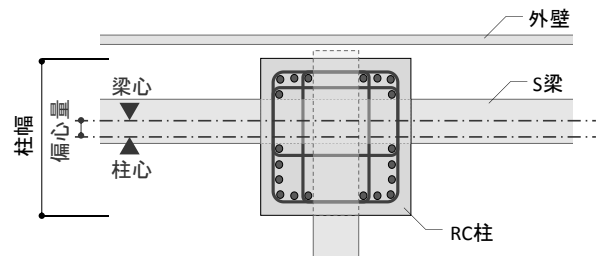


図2 柱心と梁心の偏心

**【性能証明の内容】**

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。  
 申込者が提案する「鴻池組 RCS 接合構法 設計施工指針」に従って設計・施工されたRC造柱S造梁接合部は、長期荷重時に使用上支障となるひび割れ等の損傷を起こさず、短期荷重時に修復性を損なうひび割れ等の損傷を起こさない。また同指針に従い求めた終局せん断耐力以上または終局支圧耐力以上の耐力を有する。

**【本技術の問合せ先】**

株式会社鴻池組 技術研究所 担当者:片岡 隆広 E-mail:kataoka@konoike.co.jp  
 〒305-0003 茨城県つくば市桜 1-20-1 TEL:029-857-2000 FAX:029-857-2123